



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

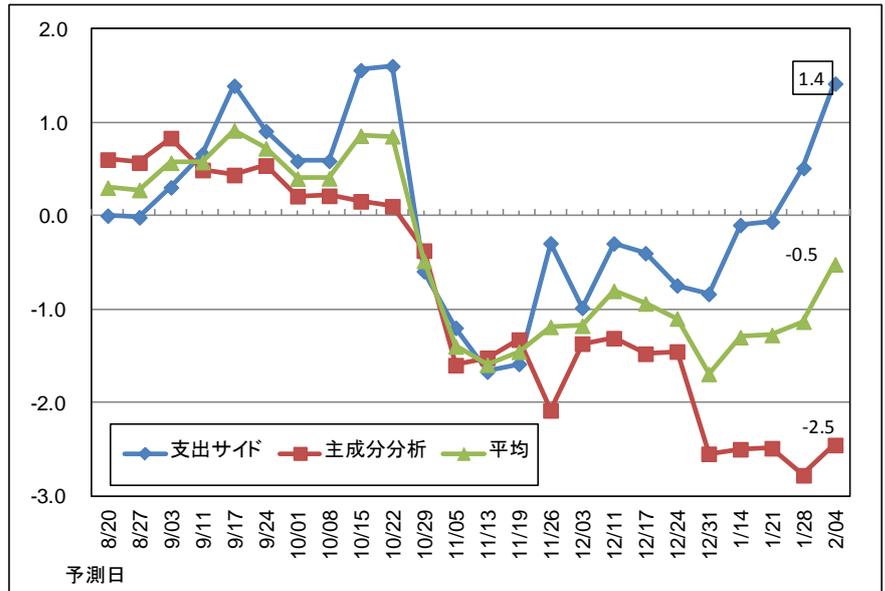
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年2月4日)

ポイント

- ▶先週(1/28-2/1)は、1月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、12月の労働力調査、毎月勤労統計調査、鉱工業生産動向、家計調査報告及び11月の建設工事費デフレータが更新された。
- ▶これらは、民間住宅、民間企業設備、企業在庫品増減、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測値に影響する。
- ▶12月は輸送機械を中心に生産が押し上げられた。1月の乗用車新車販売台数も4ヵ月連続のプラスであることから、輸送機械を中心に国内生産は増産を維持しよう。
- ▶12月の資本財出荷指数は2ヵ月連続のプラス。結果、10-12月期実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.4%と予測。2週連続でプラス成長を予測しており、景気はすでに後退局面を脱したといえよう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



<CQM は 2 週連続でプラス成長を予測。10-12 月期の景気はすでに後退局面を脱した。>

先週(1/28-2/1)は、1月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、12月の労働力調査、毎月勤労統計調査、鉱工業生産動向、家計調査報告及び11月の建設工事費デフレータが更新された。これらは、民間住宅、民間企業設備、企業在庫品増減、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。

12月の鉱工業生産指数は前月比+2.5%となり、2ヵ月ぶりのプラス。輸送機械を中心に生産が押し上げられた。1月の乗用車新車販売台数も同+8.2%(季節調整値は APIR 推計)と4ヵ月連続のプラスであることから、輸送機械を中心に国内生産は増産を維持しよう。財別にみれば、12月の資本財出荷指数は同+6.7%と2ヵ月連続のプラス。結果、10-12月期実質民間企業設備の予測値は先週から上方(前期比-2.2%→同-1.6%)へ、実質民間企業在庫品増減の予測値も上方修正された。

12月の建設工事費予定額は前月比-3.9%(季節調整値は APIR 推計)と2ヵ月連続で減少したが、10-12月期は前期比+2.2%と4期連続のプラス。12月実績は事前予測より下方修正となったため、10-12月期の実質民間住宅の予測値は下方修正された(前期比+2.3%→同+1.8%)。一方、11月の建設工事費デフレータ(公共工事)が更新された結果、10-12月期の実質公的固定資本形成の予測値は上方修正された(前期比+1.3%→同+2.0%)。

今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は民間最終消費支出、民間住宅、公的固定資本形成を中心に拡大し、純輸出は小幅縮小にとどまるため前期比年率+1.4%と予測。図が示すように2週連続でプラス成長を予測しており、景気はすでに後退局面を脱したといえよう。最終的に10-12月期の予測に大きな影響を与えるのは、12日発表の12月の消費総合指数の結果である。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550